

「アイヌ語の地名に学ぶ(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

北海道愛別町の奥地にあった、石狩々布集落。その後、「旭山」と地名が変更になったが、かつては鉾山の街として栄え、その後酪農地帯として、一定数の人口を維持していた。そのことは、小学校が存在したことでもわかる。この学校に関する、当時の資料は非常に少ない。国会図書館などにも問い合わせ、やっと見つけ出した資料はわずかに3点であった。

一つは、「愛別町史」の中の、愛別町略史。ここに、旭山小学校のことが少し書かれていた。それによると、1908年(明治41)に「石狩々布教育所」として開設されたのが始まりである。その後、中学校も併設されるなど、一定の児童・生徒数を維持していた。1963年(昭和38年)に中学校が、愛別中学校に統合、小学校は残ったものの、1982年(昭和57年)に愛別小学校に統合され、ついに廃校になっている。



「旭山小学校の航空写真」(国土地理院 1974年撮影)

地方の小さな集落では、学校が村の中心的存在になっていることが多い。当時の航空写真を見ると、小学校を中心に、たくさんの建物が見える。広い校庭がうらやましい。ほとんどは酪農家だろう。小学校は、教育施設であると同時に、村の集会所、公民館といった、コミュニティの役割も担っていたにちがいない。

実はこの小学校、意外な著名人の出身校でもある。元大関「旭国」(現大島親方)である。旭山地区の農家の三男として生まれたという。残念ながら、旭山小学校の写真はどこにも残っていない。しかし、愛別町役場にあった、廃校時の記念誌に「おぼろげな」モノクロ写真を見つけた。私は航空写真を参考に、カラー写真として再現してみた。



旭山小学校の「カラー写真」 レタッチ ; C. Tanaka

少年“旭国関”は、野球が好きだったという。こののびのびとした環境が、スポーツ好きを育て、大関へと成長させたのだろう。もし私がこの学校の教員だったら、毎日牧草地や森、それに「石狩々布川」に連れて行って、自然の中で学習させていただこう。



「現在の旭山(石狩々布)地区入口」

しかしこの地区は、ダム建設を境に廃村となり、現在は無人である。もともと環境の美しい土地。人の営みがなくなると、自然に戻るのも速い。今は、細い林道を除いて、すっかり自然の姿に戻ろうとしている。